

青年天皇は命じた

篠原にならえ!

大和田原から習志野原へ

戊辰戦争の後、日本の統治は徳川幕府に代わり明治政府が担うことになりました。

明治二年（1869年）に軍事を担当する兵部省が設置され、首都警護のため、薩摩、長州、土佐の三藩の兵により御親兵が編成されます。

明治四年には、幕府直轄の牧場が廃止され、軍の演習地となります。下総小金牧の一部であった大和田原もその一つでした。現在は習志野原と呼ばれ、自衛隊の演習場となっていますが、もともとは大和田原と呼ばれていました。何故習志野原と呼ばれるようになったのでしょうか。

明治五年、兵部省は廃止され、陸軍省、海軍省となり、御親兵は近衛兵と改称されます。

明治六年四月、158万坪を有する大和田原野営演習場で、近衛兵四個大隊2千800名による大規模な野営演習が行われました。

この演習を明治天皇が観閲、陸軍大將西郷隆盛が同行し、演習指揮官は、篠原国幹少将が任にあたりました。

演習中、明治天皇もテントに野営されましたが、折り悪しく暴風雨に見舞

「八千代の歴史と文化」のこしたいもの つたえたいもの

⑦

監修 小林 弘治
絵 小出 忠美

われ、西郷隆盛が心配の余り声をかけたと記録されています。

明治天皇はこの時22歳の青年期であり、篠原の指揮のもと、近衛兵の一糸乱れぬ演習に大変な感激をされました。そして並み居る将校たちに「篠原にならえ!」と何度も命じられたそうです。

「ならえしのはらに」と...

演習に参加した兵士たちの士気は高く、同世代の天皇とともに新しい日本を創造するという気概に溢れ、それが見学者にも伝わったということです。

演習の翌月、明治天皇より演習地を「習志野原」と命名する旨の御触れが出されます。こうして大和田原は習志野原となったのです。

さて、この時の指揮官篠原国幹は薩摩の出身で、戊辰戦争では小銃三番隊長として活躍しました。西郷隆盛が征韓論で下野すると、それに続き、西南の役で政府軍と戦い、戦死しています。



夏草も

茂らざりけり

もののふの

道おこたらず

ならし野原

明治天皇 御製

(明治20年)

